HOT-DOCK CUSTOM CYCLES

ホットドック カスタムサイクルス

河北啓二さん

取材協力／ホットドックカスタムサイクルス
TEL03-3926-0220
http://www.hot-dock.co.jp

「あまりにも次元が違って真似しようなんて思わなかった」

「最近でこそ、海外のカスタムショーで会ったりだとか、僕らも同じ会場にバイクを並べることができるようになったけれど、アレン・ネスは30年前からスゴイ存在で、とてもじゃないけれど真似できないというか、当時の僕らでは発想すらできないことを次々とやってきたからね。まったく別世界というか。それだけに業界に与えた影響力といったら断トツでしょう。昔は、サンフランシスコ周辺、ベイエリアといわれる地域のカスタムは〝ディガー〟っていう新しいスタイルが出てきたりして、それまでのロングフォークチョッパーを変えつつあった。当時の日本ではそんなのまったく発想にないワケ（笑）。カスタムっていえば、せいぜい頑張ってロングフォーク。それも『イージー★ライダー』とか映画の影響でしょう。そもそもフロントフォークを伸ばすカスタムさえ知らないっていう時代だから。さらにその先を行くディガーとか、発想もなければ、スタートからして全然違うワケですよ。

エンジン2基がけのツーバッドなんて、ホントに次元が違いすぎちゃって、参考にならないっていうか、『すっげーな！』ってなるんだけど、作ろうとは思わなかった。だから僕は当時のカスタムでも、『ベイエリアカスタムサイクルズ（以下、BACC）』の作るカスタムのほうがストリート系というか、身近に感じたなぁ。

実際、当時ネスさんのバイクを国内で乗るのはかなり難しかったし現実的ではなかったんだよね。何せ、リジッドフレームのハーレーを日本で走らせるだけでも大変な時代だったから。それもあって、スイングアーム付きでカッコいいのを作ってたBACCのほうが刺激を受けたかな。これなら僕らのローライダーやFLでも真似できそうだぞ、なんてね。

だから僕の場合、ネスさんの作るバイクから直接影響を受けたわけではないんだけど、ビックリさせられたことは事実だよ」

印象深い一台は？

1977 TWO BAD

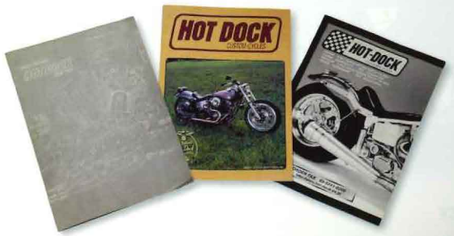
エンジンを2基搭載し、フロントまわりはハブステアという突拍子もないカスタムなど、斬新なモノを次々と作り出す発想は次元が違いすぎたという。「真似しようとは思わなかったけど、ビックリした」

ネスと人気を二分した ロン・シムズ作ディガー。

BACCが作るディガーは、パフォーマンス系パーツを使用。この車両も大径ディスクやカルマグホイールが用いられている。河北さんはむしろ、こちらのカスタムに影響を受けた

精力的に オリジナルパーツを開発。

1990年代に入るとホットドックは自社製パーツを積極的に開発し、販売。カタログを制作して販売するスタイルは、ネスに通じるが、直接的な影響を受けたワケではないという



TRIJYA

トライジャ

岡本住之さん

「斬新なバイクばかりを作り続けるなんてホントにスゴい!!」

「僕がハーレーに乗り始めたんが1994年。そのころすでにアレンネスは、ビルダーというよりもメーカーという存在だった。だから僕はメーカーとして捉えていたんだけど、バイクも作ってるし、『え、何なんやろ？』ていう感じ。ハーレーのカスタムを考えたとき、当時のアフターパーツメーカーは、ネスかパフォーマンスマシンぐらいかの選択肢しかなかったんよ。

そのころアメリカの『イージーライダース』誌をさらに高級志向にした『VQ（Vツイン クォリティ）』って本があったんやけど、これにネスのバイクがバンバン出ていて、これにやられたね。日本であまり売っていなかったから探して買ってね。こんな世界があるんか、って思ったよ。だから、'70年代から'80年代のネスのバイクよりも'90年代のリッパーとかが好きやねん。僕は実際にリッパーを所有していたこともあるけど、これが最高に乗りやすいんよ。純正よりもバランスいいんじゃないかって感じるぐらい軽いし、ラバーマウントでエンジンを搭載しているし、ちゃんと考えてバイクが作られている。見た目のバランスも考え抜かれていて、車体のど真ん中ぐらいの位置にVツインエンジンが載っているんよ。バイク作りの土台をしっかりと知っているからこそ、ネスはあそこまで大きくなったんじゃないかと思う。そしてラグジュアリーライナーもショックやった。日本に〝バガー〟なんてない時代だったからね。

カスタムビルダーからメーカーになったというのもスゴイことやけど、ずっと現役で、48年間も斬新なカスタムを作り続けてるのやろ？　普通そんなんできへん。ネスは心底カスタムが好きやったんちゃう？　利益を上げるために自分のスタイルを見失ってしまうメーカーって多いけれど、たくさんのことを自分でやりながら、まったくブレていないっていうところもスゴイと思う」

印象深い一台は？

1996 SMOOTH-NESS

「まだ完成していないのに、コレが走っている写真を見たときはカルチャーショックやった」と岡本さん。未完成だから見た目だけという次元ではなく、キッチリとバイクが作られていることを知った

取材協力／トライジャ
TEL072-970-3110
https://trijya.com

初めてのハーレーはすべてネスで仕上げた。

岡本さんがトライジャをスタートする以前の1994年に購入した愛車がソフテイル カスタム。エアクリーナーやハンドル、前後フェンダーなど、ネスのパーツをフル装備したこだわり仕様だった

1台で2台ぶん 楽しめる!?

これはネスの自社カタログに掲載している車両で深いフェンダーのスタイルと、それを取り外せばスポーティなスタイルが楽しめるカスタム。そんな発想にも刺激を受けた

ネスをオマージュした力作!!

トライジャが製作したカスタムで、シングルダウンチューブのフレームにフロント23インチ、リア20インチという迫力のシルエット。スーパーチャージャーを備えている点など、ネスなくして誕生しなかったといえる

これぞカスタムの真骨頂、なスゴイカスタム

Takata

存在感抜群な「サンモーターサイクルズ」のハイテックソフテイルチョッパー。フロントフォークのダンパーはスプリングじゃなくて油圧。どんな乗り味なんだろう？

Amemiya

「カスタムワークスゾン」のビューエルは本格的なモトクロッサー。林道なんかを走るのがすごく楽しそう。かなり手を入れていそうだけど、メインフレームを残してアレンジしているとこがすごいね！

Numao

「インディアンオレンジ」が作ったドラッグレーサーを思わせるスタイル。コレ、好みです！　クラシックな作り込みなんだけど、ところどころハイテックなパーツが付いているところもイイ

Takata

「ストゥープモーターサイクルズ」のエボチョッパー。スイングアームが付いているけど、リジッドになってるんだ！　乗り味はハードそうだけど、背中を丸めて乗るポジションはかっこよさそう

Amemiya

「ヒューモンガス」のFXRは今月号で特集している、アレン・ネスをオマージュしたカスタム。カウルやマフラー、スイングアームなど、ネスのファンならピンとくるパーツで上手に組まれてるね

Numao

5年前に「トライジャ」が作ったV-RODのフルカスタム。以前はブラックの外装だったけど、ゴールドのボディに生まれ変わってより存在感が増してる！　300㎜のリアタイヤも迫力満点です

text/T.Numao 沼尾哲平
photo/T.Momo 百々智広
取材協力／ジョインツ事務局
http://www.joints.jp

CH編集部
言いたい放題

JOINTS CUSTOM BIKE SHOW 2019

ジャパニーズカスタムの最新スタイルを大公開！

日本最大規模のカスタムバイクショー、「ジョインツ」が
今年も4月21日、ポートメッセ名古屋で開催された。
今回は例年にも増して高年式モデルのカスタムが多く見られた。
そのなかでCH編集部が特に気になったカスタムをピックアップしていく。

オープン前から会場入口には長蛇の列が。カスタムに対する注目度がうかがえる光景だ。イベントの後半では雑誌社ピック、各スタイルやエンジン別のアワードが発表された。またアイアンハートとロングビーチパーツサプライのアワードもあり、カスタムワークスゾン、車坂下モトサイクルがそれぞれ受賞した

会場外のバイク駐車場は用意されていたスペースに入りきれないほどの台数のバイクが並んだ。ここでもいつにも増して高年式モデルが特に目立っていた。さながらアウトドアカスタムショーといった雰囲気となっていた

CH編集部が独断と偏見でレポートします!

タカタ
実際に乗ったらどんな感じの乗り味なのか、どんな姿に見えるのかが気になる

アメミヤ
ボバーやレーサーなどのスタイルが好み。カスタムはやっぱり走ってナンボでしょ！

ヌマオ
スピードクルーザーやドラッグレーサーなど、速く走れそうなスタイルが大好物